

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900049		
法人名	株式会社 ころこ		
事業所名	グループホーム ころこの里		
所在地	沖縄県名護市字伊差川1054番地		
自己評価作成日	平成28年11月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4790900049-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当施設は徒歩五分程の場所に地区公民館があり、区の諸行事や催し物の際には積極的に参加し、施設行事へ地域の方々の参加を呼びかけ、利用者、家族の方々と交流を図っております。地区公民館周辺には公園、遊歩道、桜並木もあり、散歩や花見等の余暇活動に活用しています。諸行事や催し物の参加のみならず、地区の大掃除、公園の掃除、さくら開花プロジェクト活動等へ参加し、地域に貢献し密着できる施設を目指しています。また、隣接する有料老人ホームの利用者との交流、合同での施設行事の開催、地域行事への参加で親睦を深め、職員間でも夜間や緊急時の対応への協力体制を整え、連携を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は区公民館や公園に隣接した閑静な新興住宅街にあり、区の諸行事や事業所の行事等参加しやすく、地域住民と交流しやすい環境であり地域に定着した事業所である。職員は開設当初から継続勤務しており、入居者や家族と馴染みの関係を築き「私の暮らしシート」を活用し入居者一人ひとりのニーズを理解し、職員間で情報共有し一人ひとりに寄り添った個別の支援している。入居者の面も家族親戚もあるが出身区の区長や婦人会・老人会の方々が定期的に訪れゆっくと談笑する等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。当事業所は職員の資質向上のため介護福祉士や介護支援専門の資格取得にも協力支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 29年 2月 15 日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念をフロアへ掲示、毎朝の朝礼で唱和、理念を共有し実践している。 ・地域行事への参加、施設行事への参加呼びかけ、運営推進会議内容の周知等で地域との密着を意識づけている。	昨年、職員と共に検討し「地域密着型サービス」を踏まえ、「愛情、感謝、尊厳、共生」の4つの観点から作成した。毎朝唱和し、会議や日常支援の中で振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運営推進会議で施設、市、地域行事等の情報交換を行い、職員、利用者共に参加している。 ・施設行事の際は地域の老人会、保育園、サークル等に呼びかけ、余興の披露や交流を深めている。	区民運動会・豊年祭り・世代間交流・地区の大掃除に参加し、利用者は交流している。施設行事の秋祭り・旧盆エイサー・敬老会等には老人会婦人会の訪問がある。地元大学生・小中学生の職場体験や住民から野菜等の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域行事への積極的な参加、協力し、可能な限り利用者も参加し、地域で暮らす一員としての理解を深めてもらうよう心がけている。 ・地域から要望があれば研修会等開催を行う体制を整えている。 ・認知症に関する講演会、研修会の案内を施設内に掲示し、地域の方々、ご家族への参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、地域、市民行事、情勢等の情報を共有している。 ・事業所の運営状況や利用者の生活状況を報告し、意見を仰ぎサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催し利用者家族と区長・民生委員・市議会議員・担当係長が参加し、現状報告や行事・最終避難所の公民館と寝具食糧の備品の連携や認知症冊子の提供など多様な観点で話し合いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議、施設行事への参加を呼びかけ事業所運営状況やサービス内容の取り組みを周知させている。 ・市が開催する地域支援ネットワーク会議、情報交換会、研修会へ積極的に参加している。	管理者・ケアマネ等の定期的な市連絡会議があり経験交流している。市主催の制度改正についての研修会や「地域ネットワーク作り」、「独居世帯の災害対策」講座の開催に参加した。権利擁護の入居者を市と調整している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・管理者や職員が関連研修会に参加できる体制を整えている。 ・施設内でも勉強会を開催している。 ・施設内バリアフリー、屋外に数箇所の談話スペースを設け、販売機を設置、自由に使用し、出入りできる環境である。	研修やケースカンファレンスで「拘束をしない」支援を確認している。日中は中庭や玄関から何時でも屋外に自由に出入りできる。落ち着かない利用者にはドライブや買い物に誘導し、帰宅要求時は家族や孫の電話や面会を依頼している。家族に拘束の弊害を説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者や職員が関連研修会に参加できる体制を整えている。 ・施設内でも勉強会を開催している。 ・関連関連文章等を回覧し、周知徹底を図っている。		

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者や職員が関連研修会等へ参加できる体制を整えている。 ・支援が必要と思われる利用者、家族に対し、制度の説明を行う等の支援をしている。入居後も権利擁護事業の活用を継続し、安心して暮らせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に事前オリエンテーションを行う。利用者のみならず、家族を必ず同席させ、十分に説明し理解された上で締結、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を実施し、利用者、家族の代表を参加させ、意見を表せる機会を設けている。 ・意見を反映できるよう、アンケート調査の実施や意見箱を設置している。	運営推進会議や、日常の会話から聞き、男性からは個別外出や、女性は集団で買い物やドライブ等の要望が出ている。アンケートや家族会での意見では、盆正月や清明祭等の外出に介護タクシーの要望もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎朝の申し送り、月1回の全体ミーティング、リーダー会議、スタッフミーティングの開催で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。	会議やカンファレンスで夜間覚醒等の状態変化により勤務シフトや支援方法を検討している。行事やレクリエーション活動は職員の得意分野で役割分担している。又資格取得には受験手引きや実務研修を支援し介護福祉士・介護支援専門員を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう就業環境の整備に取り組んでいる	・毎年度、職員個々の実績、勤怠状況の評価を行い、諸手当、給与の見直しを行っている。 ・健康診断後の健康状態の把握、受診の推進、有給休暇の消化推進等にあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スキルアップに必要な資格取得の推進、研修会の案内や情報提供を行い、資格取得を推進している。 ・月に一度の全体会議では勉強会を開催している。 ・受講希望者へは勤務調整を行い、費用負担についても相談に応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県、市、歯科医師会等が主催する研修、地域支援ネットワーク会議等への参加している。 ・施設内研修会で他事業所の職員を講師に招いたり、他施設での研修会に出向く、自施設へ招く事でサービスの質の向上を図っている。		

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初回面談のみならず、入居時、入居後も必要に応じ、面談し、本人、家族のニーズの把握に努めアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回面談のみならず、入居時、入居後も必要に応じ、面談し、本人、家族のニーズの把握に努めアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前、入所時を含め、本人、家族と話し合い、必要としているものの優先順位を決め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日々の食事の準備、洗濯、買い物、花木の手入れ等の作業を共に行い、地域行事へも共に参加し交流を深めている。 ・利用者同士や職員と寛げるよう、団欒できる場所を設け、職員と一対一で外出する等で関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・生活状況や、健康状況の報告等を毎月の便りにして送っている。また、遠方で暮らす家族へは利用者と電話で会話できるよう支援している。 ・面会状況を把握し面会を促し、施設内行事への参加も呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の希望に沿い、自宅、地域行事、馴染みの地元の商店やスーパー、美容室等へ出かける際の支援を行う。 ・地域の自治会、老人会等の訪問の際は交流し、ゆっくり寛げる環境作りを行っている。	出身区の区長や婦人会、老人会の方々が定期的に訪問し誕生日プレゼントをいただく等の関係継続を支援している。通い慣れた市場や理髪店等を入所後も訪れている。敬老会へ参加し馴染みの人との関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活状況、ニーズを把握し、利用者間の交流関係に応じ、居室の移動、座席の配置等に配慮している。 ・少数の利用者同士が気兼ねせず、団欒、雑談できるコーナーを数箇所設置している。		

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時には、医療機関、施設、家族へ必要な情報を提供し、家族へは電話連絡し、経過を把握する等の連携を図っている。 ・退去後も必要に応じ、ご家族と連絡をとり、相談、助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的にあセスメントを行い、本人の希望や意向の把握に努めている。	「私の暮らし方シート」に暮らしの様子・長年馴染んだ習慣や好み・現在の状況・願いや支援してほしい事を記入してもらい、習慣事項・食事・排泄・飲酒喫煙・家事の習慣や興味関心など14項目以上の日常生活習慣を職員全員で継続的に記録し、思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを行い、暮らし方のシートを活用し、家族からの情報も収集し、生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の日課や健康状態を把握し、記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護保険更新時や著しい心身の変化等で見直しが必要な場合は、本人、家族、関係者と話し合い、介護計画に反映している。	サービス担当者会議を開き、利用者、家族、職員、ケアマネが参加し、医師には受診時意見を聞き、「デイサービスを継続したい」等の要望を取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングは状態により数か月～6か月で実施している。更新時または状態変化時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録を個別に記入し、情報を共有し、ケア実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族状況、ニーズに対応し、医療ケア、通院リハ、介護タクシーサービス等、多機能に利用できるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くに地区公民館があり、公園等も隣接しており、日々の余暇活動にも活用できるように努めている。 ・本人が暮らしていた地域への行事や催し物への参加も希望に沿い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医の受診の希望があれば継続できるよう支援している。 ・家族が受診を付き添う場合は必要な情報が提供し、対応できない場合は付き添いを行っている。その際、家族へ受診の結果や経過内容を報告し、受診予約日の管理等、連携を図れるよう努めている。	入居前からのかかりつけ医を継続利用している方がほとんどで、月に2度の訪問診療もあり、適切な医療が受けられる体制を整えている。定期受診は家族対応を基本としているが家族の対応が難しい場合は職員が付き添いを行っている。受診内容は即日ミーティングで周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の健康状態の観察を行い、受診時に必要な情報を提供し、医師、看護師からの指示を仰ぎ、受診の指示がある場合は対応できるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には必要な情報を提供し、退院に向けてのカンファレンスには積極的に参加し、看護師、MSW等病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・定期受診を確実に受けられるよう体制を整え、日頃より嘱託医、かかりつけ医と連携を図り、重度化し、医療ニーズを必要とする場合は、医師よりの説明、事業所でできる事を十分に説明し、利用者、家族の意向を尊重し必要な支援を行う。	重度化や終末期のあり方については、事業所で対応できること、出来ないことを入居時に伝え、本人家族の意向を尊重することと説明している。状態変化に応じて家族と話し合いを持ち意思確認を行っている。現在、施設での看取り対象の方はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内でもAED取り扱い、急変時、事故発生時対応の勉強会等を定期的に行い、施設外でも研修があれば参加している。 ・嘱託医医療機関より、指導を受けられる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防火、避難訓練等を年2回行い、地区公民館、近隣住民へも参加を呼びかけ、連携を図っている。 ・運営推進委員会の方々へも協力を依頼し、意見を頂いている。 ・全職員の緊急連絡網を作成し、連絡法の訓練も同時に行っている。	昼夜想定避難訓練を2度実施している。運営推進委員会の方や地域の方の参加もあり協力体制を築いている。緊急装置、スプリンクラー、マニュアル、連絡網も整備され、備蓄はレトルト食品等5日分・カセットコンロ等がある。	非難訓練時、連絡網を用いた電話リレーによる訓練も行ったが、より効率的に、全職員に連絡が届き現場駆けつけができるような体制作り(一斉メールの活用等)工夫が望まれる。

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・人格を尊重し、気分を害さないよう、丁寧な言葉かけに努めている。 ・個々のコミュニケーションに沿った言葉かけに配慮している。 ・利用者へのアンケートを実施し、意識を高めている。 	<p>日常の関わりの中でセンター方式の活用により、本人の希望やおもいの把握に努め、さまざまな要望に応えている。利用者の誇りやプライバシーを損なわないように、丁寧な言葉使いをするよう気をつけている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、本人の意思確認を行い、希望を聞きながら、利用者のペースに合わせ、ケアにあたっている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り時間の縛りをなくし、職員の都合に囚われず、利用者のペースで食事や入浴等が行えるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・整容、整髪等、清潔を心がけるよう声かけし、好みの服や履物等を取り入れている。 ・身だしなみセットや化粧品を揃え、おしゃれができるよう支援している。 ・希望があれば美容室や理容室に出かける際の支援も行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫作業を共に行ったり、食材の差し入れがある場合はメニューを利用者の好みで取り入れている。 ・野菜の下ごしらえ、おやつ作りや簡単な調理作業、準備、片付け等も共に行う。 ・できる限り、職員も利用者と共に会話を楽しみながら食事をいただくよう心がけている。 	<p>同施設内に設けた新しい厨房で3食共調理している。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み同じ食事を摂っている。メニューは利用者の好みを反映させ、主に郷土料理を中心に畑でとれた野菜をふんだんに使った献立をたてている。下ごしらえや片付けも利用者が手伝っている。おやつは全員で一緒に手作りしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の食事、水分量のチェックを行う、利用者の状態に合わせ、食事形態、摂取量を調整している。 ・その日の体調に応じ、メニューを変えたり、好物を取り入れる等の工夫を行っている。 ・アンケート調査で聞き取りを行い、食生活に反映している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声かけし、口腔ケアを促す、十分に行えない利用者へは支援を行う。 ・夕食後、就寝前は義歯を取り外し、洗浄液に浸け清潔保持に努めている。 		

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できる限りトイレへ誘導し、排泄の失敗を予防している。夜間もできる限りトイレ誘導、ポータブルトイレの設置を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握している。日中は全員トイレでの排泄を支援している。居室からトイレの距離も近く、失敗もさりげない声掛けでトイレに設置のシャワーを使用して清潔に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の体操、散歩、レク等で運動時間を設けている。毎日、排便の有無を確認し、できる限り自然に排便できるよう、食事やおやつメニューの工夫、水分摂取の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・希望があれば毎日の入浴も支援している。その日の希望に応じれるよう、入浴の時間帯は固定していない。 ・入所時や再アセスメント時に、異性、同性介護の意思を確認し、尊重し支援している。	一人ひとりの希望に沿い、入浴日や時間は固定していない。一日ごしや毎日入浴の方もいる。着替えは本人に選んでもらい、化粧水やヘアクリーム等、こだわりの品を使用している方もいる。入浴が楽しみになるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中はできる限り、活動時間を設け、日課の誘導で生活パターンが身につくよう夜間良眠できるように支援している。 ・心地良く眠れるよう空調管理にも気を配り、居室以外でも休息や仮眠がとれるスペースを設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服管理、毎食後、就寝前等の指示がある時間に服薬の支援を行う。 ・薬手帳、薬剤情報の活用で副作用、用量の確認を行う。 ・処方の変更がある場合は、経過観察し、主治医へ状況を報告する。 ・薬剤師により助言、アドバイスをもらえる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事、散歩、外出、花木の手入れ、おしゃれ等、本人が楽しみ、生きがいを感じる事へ取り組めるよう支援している。 ・ご家族へ嗜好品の購入依頼、買い物支援で嗜好品は望み通り愛用させている。 ・暮らし方シートでアセスメントを実施し、生活歴等の把握に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物や散歩等の外出をできる限り、その日の希望に沿い支援している。 ・自宅訪問や家族への面会、地域行事への参加余暇活動等の普段行けない場所への外出は家族、地域の方々々と相談しながら計画している。	日々の会話の中で、行きたい所や希望をきき対応している。日常的に食材の買出しやホームセンター、洋服屋やカラオケに行く等楽しんでいる。パチンコがしたいとの要望があったときはゲームセンターへ出掛けたこともある。以前の職業に関係する場所を訪問する等の支援も行っている。	

沖縄県(グループホーム ころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物へ出かけたいとの希望があれば支援している。金銭管理能力のある利用者は所持させ、使えるよう支援している。 ・買い物に頻繁に出かけられない利用者に対しては、毎週訪れる訪問販売を利用して買い物を楽しませている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば、電話や、手紙等のやり取りの支援を行う。また、家族が遠方在住で殆ど面会がない利用者へは定期的に電話で声を聞けるよう、また写真等を郵送し支援している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・庭に花木を植え、畑で野菜を育てている。水撒き、草むしり、収穫で季節を感じてもらえるよう支援している。ホールに季節行事の装飾品を作成し、掲示している。 ・オープンキッチンで利用者と協働で調理作業し、明るい雰囲気や食事が楽しめるよう配慮し、BGMも季節に応じた選曲、利用者の好みの曲を流し、心地よく過ごせるよう工夫している。 ・換気や室温管理にも気を配っている。 	開放感のある広いリビングや玄関には季節行事の作品を飾っている。フロアは死角がなくオープンキッチンがあり、会話しながら調理作業ができる。中央にリビングテーブルとソファが置かれ小上がり風の畳間(掘りごたつ)から庭が見渡せ、明るい空間作りで心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・和室にもテレビを設置し、家族での団欒や一人で過ごすこともできる。 ・食堂テーブル以外に、ソファを数個配置し、気の合う利用者同士が寛げるよう配慮している。屋外でも自動販売機を設置し、休息スペースを設け自由に過ごせる空間づくりを工夫している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に沿い、自宅で長年愛用していた家具や小物を継続して使用するよう促している。 ・独居の利用者の思いに沿い、仏壇、火ぬ神を置き、旧暦行事の支援も行う。 ・家具の配置等は、本人、家族と相談し、生活ベースに合わせて配置している。 	居室のベッド以外ではできるだけ本人の愛用している品や家具を持ち込んでもらっている。居室の壁には家族の写真や作品等を飾っている。各居室にウォールポケットを設置し、事業所で撮りためた本人の写真を入れ、家族が訪問した際に自由に写真をお持ち帰りいただくようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒事故の予防に努め、移動箇所の点検、非常口周辺を整備し安全を確保している。 ・建物内を車椅子や独歩で可能な限り自立移動できるよう、共有スペースの環境を整え、屋外への出入りも制限せず、自由かつ安全に行えるよう工夫している。 		